

読む意欲、書く意欲を喚起する句会形式書評合評会

佐藤広子（目白大学）

キーワード：読書、書評、合評会、相互評価

1、はじめに

本ワークショップは、句会の形式を応用した書評合評会を体験していただくものである。俳句を作り、批評し合い、優秀句を選ぶ句会において重視されているのは匿名性である。誰の作品か分からない状態で作品評価を行うことで、平等性が担保される。また、優秀作品の作者のみが名乗りを許される仕組みはゲーム性にも優れ、表現意欲を引き出すことにつながると考えられる。

2、読書活動を活性化させる一手法として

ご紹介する書評合評会は、目白大学の「現代文学」という授業で行い(2012～2015年度)、読書活動の活性化に効果が認められたものである。授業シラバスの到達目標は、「現代文学の代表的作家の作品を読み、現代文学についての知見を高め、認識を深める。授業を通して読書の楽しさを味わい、主体的な読み手として、自ら進んで様々な作品に親しめるようにする。」としている。第1回から第11回までは教師の選んだテキストを読み、課題に応じて様々な方法で話し合い、互いの読み方の違いを交換し、読解を深める。第12回から第15回は学生が本を選び、その本の魅力を伝えるためにブックトークか書評のいずれかの活動を選択することとしている。

書評を選択した学生は、自分が薦めたいと思う作品の紹介を800字以上1200字以内で書き、事前にメールで提出する。書き手の学生は、読者が「この本を読んでみたい」という気持ちにさせられる内容(豊崎2011, p.26)になるよう、粗筋をまとめ、引用箇所を選ぶために何度も本を読み直す。合評会で採点、講評されることが分かっているため、緊張感を持って読み、書くことが促される。合評会後は、自分の書評を書き直したい、そのためにもう一度同じ本を読み返すと意思表示する学生が複数現れる。

書評の読み手は、個人で採点した後、グループワークでなぜその点数にしたのか理由を説明することになっているので、批評的に読む。合評会後に高得点をつけた書評の本を図書館で借りたり書店で購入したりして、実際に読んだという報告も多く受けている。

3、協同教育としての観点

ここでは、書評合評会を通して、互恵的な支え合いの関係がどのように構築されるかについて述べる。

その場にいる学生が書いた書評で合評会を行う前に、学生達には前年度の学生が書いた書評のプリントを用いて書評合評会を体験してもらう。目の前で点数がつき、公表されるという仕組みを体験した上で、書きたいと意思表示した学生が書評を書く。その「書く」という選択をしたことに対して、他の学生は敬意を表し、評価で応えようとする。

書評合評会では、個人ワークで採点した結果を持ち寄り、グループで話し合いを経て、グループとしての点を出し、講評を考える。個人ワークの評価は、価値観や好みに応じて差が出ることが多い。その差を埋めるために、それぞれの意見を根拠と共に説明することが求められる。この過程で、新たな視点から書評を改めて読み直すことになる。さらに、決められた時間内に黒板の表にグループの点数を書くというルールを設けているので、協力してお互いの意見を尊重しつつ、合意形成が目指される。

黒板上で各グループの点が集計され、上位3位までに花丸、二重丸、○がつけられる。その結果を見ながら各グループ代表が講評を行うが、書評を書いた本人が教室にいることを意識し、良かった点と改善点を誠実に伝えようとする。仮に低い点がついたとしても、講評によってその理由が納得できた場合、書評を書いた本人は振り返りで次への意欲を表明することが多い。理由が納得できなかった場合は、価値観の違いの再確認を行う結果となる。

4、ワークショップの流れ

I 書評合評会

- ①個人で書評プリントを読み、採点する。書評の数×3点を持ち点とし、持ち点の範囲内で1点から10点までをつける。その点にした理由も書く。(20分)
- ②グループになり、話し合っグループとしての点をつけ、講評を考える。
- ③黒板の表にグループの点を書き入れる。(②③計20分)
- ④各グループの点を合計し、最も高得点だった書評を花丸書評とする。
- ⑤各グループ代表が講評を述べる。(④⑤計20分)

II 事例紹介(10分)

実際に53名のクラスで実施した際の様子をご紹介します。53名の内訳は4年生6名、3年生11名、2年生32名、留学生4名である。所属は3学部6学科に及んでおり、年齢所属国籍共に多様性のあるクラスである。

III 意見交換(20分)

協同教育として行う上での問題点、改善点などについて意見交換をお願いしたい。

〈参考文献〉

- 豊崎由美(2011)『ニッポンの書評』光文社新書
二通信子・門倉正美・佐藤広子(2012)『日本語力をつける文章読本』東大出版会